

平成26年度 第2回 碧南市子ども・子育て会議 会議録

日時

平成26年8月26日（火）午後14時00分から

場所

碧南市役所 会議室1

出席者及び欠席者

（1）出席委員

中根潮美、鈴木美香、杉浦紀政、水野裕子、板倉尚子、水野博史、中根孝明、近藤友香、大河内裕子、石川陽子、山田淳二、菅原優、黒坂徳弘、野々村尚道、加藤美保子、藤井理沙、大岩みちの（委員兼アドバイザー）

（2）欠席委員

杉浦幹夫、早川登実幸、栗並えみ

（3）事務局職員

福祉子ども部長 鈴木重幸、子ども課長 鳥居典光、子ども課指導保育士 鈴木正枝、子ども課指導主事 古市幹子、子ども課幼保係長 杉浦英樹、子ども課育成支援係長 石井香代、子ども課育成支援係 担当係長 亀島有香

傍聴者

0人

議題

1. あいさつ

2. 議事

- （1）子ども・子育て支援新制度について
- （2）子ども・子育て支援事業計画素案について

3. その他

4. 議事

(1) 子ども・子育て支援新制度について

事務局より、「子ども・子育て支援新制度」について説明を行った。特に審議なく了承された。

<主な意見・質疑>

【事務局】

資料の補足として、碧南市の保育の認定基準の中で、3歳未満児の保育の必要性において、就労下限時間を120時間としている。本制度では、就労下限時間を48～64時間の間で市が定めることとなっているが、本市では経過措置を用いて、今後、就労下限時間が60時間になるまで順次拡大する方向である。

(2) 子ども・子育て支援事業計画素案について

事務局より、「子ども・子育て支援事業計画（素案）」について説明を行った。次回委員会においても引き続き審議する結果となった。

<主な意見・質疑>

【事務局】

事前にA委員から質問を頂戴しているため、その紹介と回答をさせていただく。委員からの質問は3点。まず、“保育所の利用状況が4/1時点、幼稚園の利用状況が5/1時点で記載されているため、年度途中の入退所数を把握することが困難である。また、各見込み、提供体制の年齢の区分は、「学齢別」と解釈すればよいか。”との意見をいただいた。

利用状況の記載方法として、年度末時点と年度当初時点を併せて記載する方法としたい。また、年齢別の各記載は「学齢別」と解釈していただきたい。

続いて、“放課後児童健全育成事業の利用状況について、一か月の利用を記載している理由は何か。また、量の見込みは低学年と高学年に分けられているが、提供体制は合算した数値となっている。提供体制も低学年と高学年で分けた方がよいのではないか。”との意見をいただいた。

放課後児童健全育成事業については夏休み等年度途中で解約する方も多いが、推計が困難であるため、1か月あたりの利用平均を記載した。低学年と高学年の区分であるが、提供体制については低学年と高学年という年齢で区分することは利用上好ましくないと考える。年齢ではなく、家族の状況で利用の必要性が高い児童に対して提供していくことが必要であるため、年齢の区分は設けないこととしたい。

最後に“全保育園で私的契約児の受入を可能とする。とあるが、一部の保育園では現在私的契約児を受け入れていないと思われる。平成27年4月以降はすべての保育園で受入が可能となる解釈でよろしいか。”との意見をいただいた。

これについてはご質問のとおり、すべての保育園で実施していく予定である。

【B 委員】

P21、22について、低学年と高学年については分けていただいたほうがよいのではないかと。児童クラブ利用者については、低学年については1年生から3年生という案内がある。3年生の利用者については、本来であれば4年生まで引き続き利用することが見込まれる。高学年の利用分も見越して計画を立て、人材確保や場所の確保について取り組むべきなのではないか。

また、外国籍の子どもが多くなっている。これらの方々が児童クラブを利用した際、通訳ができる方が配置できるといいのではないかと。子どもの数の減少により量が減るとあるが、地域的には数が増える箇所もあるので、その点を詳細に検証していただきたい。

【事務局】

高学年のニーズは、実際の保護者に対して実施したアンケートをもとに算出したニーズである。高学年になればなるほど利用が減少するという実績もあり、そのような背景を勘案して設定している。また、低学年と高学年で枠を決めてしまうと、学年によっての差異に対応できなくなるため、融通を利かすために提供体制は合算として考えていきたい。通訳の常駐については人材確保との兼ね合いが難しい問題である。状況に応じて派遣するなど、臨機応変な対応としたい。

【B 委員】

児童クラブでは、低学年の指導と高学年の指導で内容が変わる。支援員の質の向上も必要になるため、積極的に取り組んでいただきたい。

【講評】

住みやすい・育てやすいまちを進めていくと、家庭的保育や小規模保育についても準備を進めていくほうがよいのかと感じた。また、離婚前や離婚後のケアとあるが、子どもの視点を外さないということも重要であると感じた。

また、子ども・子育て支援について近隣で市立幼稚園が移行しないとあるが、岡崎市で1園移行する園がある。ぜひ碧南市においても注目していただきたい。

【事務局】

素案についての議論は、次回委員会でも引き続き行うことを想定している。

以上